

科目名称	チーム医療福祉実践論
授業コード	BL381
英語名称	
学期	2024年度後期
単位	1.0
担当教員	中里 哲也, 井岡 由美子, 宮本 佳子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	地域共生社会実現のためのソーシャルワーク実践に求められる多職種連携について、他学科と共同で互いの知識や技術を学ぶ。事例を用いたグループ演習を通して、医療の場を中心とした多職種連携の実践について理解を深める。
科目に関連する実務経験と授業への活用	社会福祉士の資格をもとにしたソーシャルワーク実践の経験を活かした講義、演習の指導を行う
到達目標	<p>ディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけている。」「社会福祉に関する基本的な知識や技術を修得している。」「広い視野をもって福祉的課題を見つけることができ、探求することができる。」「他者と協力して社会的活動に参画することができる。」を修得する総合的学修する。看護・理学療法士の中でソーシャルワーカーとしてチーム医療における自分の役割・位置づけを認識し、メンバーシップを内省する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種連携に必要なチーム医療実践やケアコーディネートをマネジメントする知識・技術・価値を基盤にソーシャルワーカーの資質として内省できる。 2. 多職種の職域や、他職種の力を知ることができる。 3. 多職種連携が行われている意味を理解することができる。 4. チーム医療におけるソーシャルワーカーの役割とチームケアの発展可能性を認識できる。
計画・内容	<p>第1回 オリエンテーション 『看護学科・理学療法学科・医療福祉学科の3学科の合同講義』 テーマ 「グループ作り」3学科 チーム医療論概説 内容：3学科の教員から講義を受ける。（中里哲也，井岡由美子，宮本佳子 他）</p> <p>第2回 テーマ 「互いを知る」『3教室に分かれてグループワーク』 内容：自己紹介を行う。「3学科の合同グループに分かれてグループワーク」テーマ「互いを知る」『3教室に分かれて講義』（中里哲也，井岡由美子，宮本佳子 他）</p> <p>第3回・第4回 3学科教員による「看護・理学療法士・ソーシャルワークの其々の専門性について」理解する。（中里哲也，井岡由美子，宮本佳子 他）</p> <p>第5回・第6回 テーマ 「他職種と協働し、事例の課題解決を考える」『3教室に分かれてグループワーク』3学科教員による「看護・理学療法士・ソーシャルワークの其々の専門性について」（中里哲也，井岡由美子，宮本佳子 他）</p> <p>第7回・第8回 テーマ 「他職種と協働し、事例の課題解決を考える」『3教室に分かれてグループワーク』 テーマ 「学びを他者にわかるように報告する」『3教室に分かれてグループワークと報告会』（中里哲也，井岡由美子，宮本佳子 他）</p>

授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・講義と演習を組み合わせで授業を行う。 ・授業の終了後にリアクションペーパーを提出する。 ・グループディスカッションを行う回や学生が発表する回もある。
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・記録用ノートを準備し、様々な職種の人と連携できるよう、他者の意見を傾聴する、自分の考えをまとめて発言する ・グループでの意見を調整して課題解決力を身につけること、また、考察を深めることができるようにノートを取り、事前考察・事後のまとめ、課題整理を各回行うことが重要である。 ・グループワークでは役割を担い、グループメンバーの力を引き出し、意見をまとめるなど積極的な態度で臨むこと。
授業時間外の学修	<p>予習・復習で合計2.25時間を目安とする。</p> <p>予習：事前課題やグループでの役割分担に取り組む。</p> <p>復習：配布資料や授業中に書き留めたメモをまとめる。</p>
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜資料を配布する。
成績評価方法と基準	リアクションペーパー（20%）、授業中の課題（30%）最終レポート（50%）
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・学生からのリアクションペーパーの内容をもとに、授業への反映を行う。 ・学生の発表の都度、コメントを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・医療福祉学科の必修科目である。積極的に参加すること。 ・授業時間は、各回ごと連続の授業となり、看護学科・理学療法学科の学生とチームでグループワークを行う。また通常と異なる回があるので、留意すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>非対面となった場合の「授業の進め方」は、ZOOMを活用してリモート授業に転じる。</p> <p>その際の「成績評価方法と基準」は、毎回の予習・復習レポート、グループワーク姿勢・発表により総合評価する。</p>